園のおたより

第　１１　号

令和８年３月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

てをつなごう

園長　関　由起子

先日、3 組のみんなと国立科学博物館へ遠足に行ってきました。帰り道、上野駅へ向かう一行から自然と沸き起こったのは、槇原敬之さんの『てをつなごう』の大合唱。2 人 1 組でしっかり手をつなぎ、前後にぶんぶんと振りながら行進する姿は、さながら「小さな平和使節団」です。

最後尾からその光景を眺めていたのですが、すれ違う観光客の皆さんの表情がまあ、緩むこと緩むこと。国籍を問わず、誰もが「ふふっ」と目尻を下げて見守ってくれました。こどもたちがこの歌を、園歌と同じくらい……いえ、もしかするとそれ以上に（！）大好きだということが、弾む背中から伝わってきて、私まで誇らしい気持ちになりました。

幼稚園は、あちこちで「手をつなぐ」光景が見られる場所です。登降園時にお父さんやお母さんなどのお家の方と。園内ではお友だちと。そして時々、私とも。こどもたちの手は、小さくて驚くほど温かいですね。たとえ冬の寒さに凍えていても、握りしめればその奥に熱い血潮……いえ、溢れんばかりの「生命エネルギー」を感じます。

ふと、我が家の娘のことを思い出しました。あんなに「じっとり」と温かかった手の感触も、今や遠い記憶……。反抗期を経て成人した今、もう手をつなぐなんて夢のまた夢ですが（笑）、あの温もりを感じた瞬間に「この命を守るためなら、他に何もいらない」と強く思ったあの日の決意だけは、今も私の心に鮮やかに刻まれています。

歌詞にもある通り、世界中の人が手をつなげば、きっと優しさと力が湧いてきて、平和な世の中になるはずです。「大人こそ手をつなぎなさい！」というこどもたちからのメッセージを、私たちは素直に受け取るべきなのかもしれません。

さて、私がお届けする「園長の言葉」も今回が最後となりました。4 月からは新園長が着任いたします。これまで温かく支えてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。こどもたちのその小さな手の温もりを、これからもどうぞ大切に、ぎゅっと守り続けてあげてください。